

# 私の思い出



みそら野 石田 弘行

## 夢の地・白馬

私は、昭和20年に母の実家である岩手県盛岡市で生を受け、幼児から大学卒業までを東京練馬で生活し、白馬との縁は高校入学と同時に山岳部へ入部したことに始まりました。昭和36年8月、私の母校である東京都立石神井高校の山荘が八方尾根黒菱に竣工しました。雪山に映える黄色い屋根(マナスルカラー)の建物がそれです。

創立当初から、この山荘の運営は大変ユニークで、学校行事である林間学校の唐松岳登山やスキー教室に参加する高校生の山荘滞在中の生活一切を、卒業生が面倒見るというものでした。山荘竣工の年

に石神井高校に入学し、山岳部や黒菱山荘での活動を通じ、白馬を身近に感じつつ、高校卒業後はOBとして後輩の世話を続け、大学では造園(観光分野)を学ぶうちに、卒業後も白馬で生活するすべはないかと、白馬での就職を真剣に考えました。そして当時は大卒採用のなかった白馬観光開発(株)へ頼み込み、運良く入社することができたのです。梅池営業所、東京本社総務・営業・企画、白馬への本社移転など、白馬観光開発(株)での仕事は充実していました。岩岳メンバーズクラブ、白馬トレッキング、梅池ロープウェイなど思い出多い仕事がたくさんあり、私を社会人として育ててくれた場でもありました。

お世話になった会社でしたが、事情があって中途退職し、東京に転職したものの、白馬への想いは絶ちがたく募るばかりでした。結局、昭和63年に再度の白馬移住を決心し、みそら野で『グローブ イン スカラ』という宿を開業し、今

日に至っております。宿のかわら、山案内人、遭対協、マイスターなどの仕事を兼ね、村の観光に少しでもお役にたてればと働いてきました。

今年、私が初めて白馬の地を訪れて50年になります。あつという間の50年でした。

8月には白馬で結婚した長女夫婦に私達の初孫が誕生し、同居の次女夫婦はスカラの後継者として歩み始めました。喜びの中に戸惑いも感じつつ、世代の交代を実感する今日この頃です。この地に、私達の代にまいた種子が、目を出し、根を張り、花が咲き始めました。昔からの山仲間「お前は幸せ者だ」とよく言われます。本当にそう思います。

白馬の地で家族そろって生活できることの幸せは、夢の実現にはかならないからです。このことは、八方をはじめ、この村の大勢の方々の支えがあったからこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。

すでに高齢の域に達しましたが、これからも白馬の自然と、この村の持つ素晴らしさを守り育てる気持ちを失わず、白馬に生きる喜びを日々大切にしたいと思えます。

# 全員協議会

平成23年10月3日 開催

大町市三日町自治会の10月1日の投票結果を受け、北アルス広域連合の新ごみ焼却施設計画などについて、行政からの説明を聞きました。

## ●大町市三日町「住民投票」の結果

新ごみ焼却施設計画の受け入れに

反対	……………	161票	(60・75%)
賛成	……………	104票	(39・25%)
無効	……………	7票	

〔投票対象者 272人〕

議会では「ごみ処理特別委員会」を設置し、エコパーク寒川(飯山市)・最終処分場(野沢温泉村)などの視察を行い、人口の減少化や財政面等に配慮した効率的な処理方法などの研究に努めております。

今後も大町市環境プラント及び白馬山麓環境施設組合清掃センターの老朽化対策やごみの減量化、資源ごみリサイクル、集積場の設置など、大きな視野から行政とともに取り組んで参ります。